

基礎演習 (Basic Seminar)					担当教員
					准教授 坂本 尚志 他 担当教員
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
薬学教養	1年次 通年	演習 グループワーク	1.5単位	必修	

【概要】

「問題解決能力と豊かな人間性の育成」を目標として、その基礎となる本学における学びの姿勢、および自発的な学習態度や問題解決策を模索する姿勢を身につけ、また他人と協調して成し遂げる姿勢の育成を目指す。原則として1年間を通した隔週での演習となる。10名程度の少人数制とし、学生間の討論を中心とした演習を行う。広い意味における「医療」をメインテーマとし、各担当教員の指導のもとで個人あるいは複数名のグループ単位で問題の提起、情報収集、解決策の探索、発表、議論、レポート作成までの一連の流れを修得する。

本演習は対面で実施します。

【授業の一般目標】

本演習の目的は主に 大学における学びの基本姿勢を学びこれを維持継続できること、 自分達で課題を見出して問題設定ができること、 設定した問題を解決するためのプロセスを協働作業を通じて理解し実践できること、である。

なお、本科目は初年次教育の一環として行われます。

[関連する卒業認定・学位授与方針] DP2・DP3・DP4

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

○学習項目は各担当教員の指導により定める。

○到達目標

1. 設定した課題について自ら積極的に調査し、問題点を見つけ出し課題を設定できる。
2. 問題点について自ら進んで取り組み論理的に考えを組み立てることができる。
3. 問題点に対してその解決策を提案できる。
4. 自分の意見を発表し、他者の意見を聞きながら議論できる。
5. 共同作業を通じて他人を思いやることができる。

○対応するSBOコード

A-(4)-4, A-(4)-5, E1-(4)-4

【準備学習(予習・復習)】

自分達で課題を見出し設定したテーマについて自ら情報収集し、発表や討論の準備を積極的に行うこと。発表や討論における自分自身の態度をふりかえることで「豊かな人間性」について考えてみる。また、共同作業による準備も必要となる。

上記予習復習を合わせて1週あたり150分程度の学修が必要である。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	大学での学び(1)	齋藤(博)、 上野、武上	大学での学びの姿勢について、その実践的手法と態度を身につける。	
2	大学での学び(2)	齋藤(博)、 武上、古田、開	大学での学びの姿勢について、その実践的手法と態度を身につける。	
3	SGD, PBLとは何か	各担当教員	基礎演習の目的と全体の流れを理解し、SGD, PBLの概要を理解する。	A-(4)-4, A-(4)-5, E1-(4)-4

4	SGDに取り組む	同上	SGDを実践する中で、自主的に意見を述べること、他の人の意見を聞くこと、お互いに意見交換ができる。	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4
5	SGD, PBLの実践(1) 議論・調査活動を行う	同上	身近なテーマを題材に、KJ法やWorld Cafe等の手法を用いて討論することができる。	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4
6	SGD, PBLの実践(2) 議論・調査活動を行う	同上	身近なテーマを題材に、KJ法やWorld Cafe等の手法を用いて討論することができる。	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4
7	中間まとめ	同上	SGDの実践を通して、SGD, PBLとは何かを理解し体得する。	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4
8	SGD, PBLの発展(1) 共同研究活動を行う	同上	グループで提案した問題点についてPBLを実践し、合同発表会に向けた準備を進めることができる。	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4
9	SGD, PBLの発展(2) 共同研究活動を行う	同上	グループで提案した問題点についてPBLを実践し、合同発表会に向けた準備を進めることができる。	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4
10	SGD, PBLの発展(3) 共同研究活動を行う	同上	グループで提案した問題点についてPBLを実践し、合同発表会に向けた準備を進めることができる。	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4
11	SGD, PBLの発展(4) 共同研究活動を行う	同上	グループで提案した問題点についてPBLを実践し、合同発表会に向けた準備を進めることができる。	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4
12	SGD, PBLの発展(5) 共同研究活動を行う	同上	グループで提案した問題点についてPBLを実践し、合同発表会に向けた準備を進めることができる。	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4
13	SGD, PBLの発展(6) 共同研究活動を行う	同上	グループで提案した問題点についてPBLを実践し、合同発表会に向けた準備を進めることができる。	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4
14	合同発表会	同上	複数のグループで発表会を開催し、SGD, PBLに基づいた研究発表を行い、相互に意見交換ができる。	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4
15	総括・まとめ	同上	総括・まとめ	A-(4)-4,A-(4)-5,E1-(4)-4

	(書名)	(著者・編者)	(発行所)
教科書	『京薬生のためのアカデミックスキル』	京都薬科大学	アカデミック・スキル育成研究会
	『理系薬学版 アカデミック・スキル』	京都薬科大学	理系薬学版 アカデミック・スキル研究会

【成績評価方法・基準】

演習回すべてにおける活動、および課題への取り組み（自主性、積極性、発表や議論の内容等）状況について、「基礎演習（Basic Seminar）」について（2023年度版）」内に示したルーブリック等に基づき、総合的に評価する。

【評価のフィードバック】

成績評価の講評については、個別に対応する。

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

初回到各担当教員から連絡する。